

頭痛・麻痺・機能障害と PAPT(頭頂部鍼療法)

開催日

2025年 9月6日 (土) 14時30分～

7日 (日) 9時00分～

場所

TIME SHARING

東京都中央区銀座3丁目8-13

銀座3丁目ビルでビルディング5階

会

15,000円 (7月31日までの申し込みで12,000円)

会員以外は15,000円. スタッフは7,000円

懇親会

9月6日 (土) 19:00～ 銀座ライオン5丁目8-1 GINZA PLACE B2F

事前申し込みをメールにてお願いいたします

会費 10,000円

場所 銀座ライオン



DJ帝 (ディー・ジェイみかど、1984年3月27日-) は、

日本のクラブDJ、ラジオパーソナリティー、三味線奏者。神奈川県横浜市出身。血液型はB型。特技は津軽弁。横浜を中心にDJ活動を行う傍ら、「ミカド雅峰」名義での三味線奏者としても知られる^[2]。日本民謡協会公認・民謡アンバサダー。

?

シークレット
芸人

申し込み先 PAPT研究会事務局 mail fujii@papt.tpkyo

振り込み先 ゆうちょ銀行 店名728 普通2666427

1日目 9月6日 土 2日目 9月7日 日

13:30~ 理事会.

14:00~ 総会.

14:35~一般公演① 4 題

16:10~休憩

16:30~教育講演①

09:00~ 業者案内.

10:10~ 一般講演② 3 題

11:10~ 一般講演③ 3 題

12:00~ランチセミナー

13:30~教育講演②

一般講演演題

1。発症から11年無治療で経過した顔面神経麻痺に対するPAPT療法 藤井歯科医院 藤井 宰

平成16年7月12日生 20歳 男 11年前 右側顔面神経麻痺を発症する、本人の記憶では、親に連れられ2年間ぐらい鍼治療に通っていたが、変化は見られず現実に至る(中学、高校、大学治療無し)。2024年11月25日より本医院でPAPT治療を開始する、治療点は、頭頂部はPc1,2,3 顔面神経 感覚点 右眼、左右頬、左右口 Y-point 肝、腎(右) 右巨髒、髒両側地倉を主に取穴した、場合によっては低周波通電も行う、その際は1回につき90Hz20~30分で、その他に近赤外線治療器(スーパーライザー)、レーザー治療器(ルミックス)も筋の動き確認しながら、それぞれ10~15分照射を1回の治療として行い、25回(4か月)で主訴であった右眼瞼の開閉、黒眼の反転と左口角の変位が回復した症例を報告し、ご意見を頂きたいです。治療に使用した鍼は、セイリンJSP1寸5番鍼を使用。

2。左側大腿部から脛脛外側にかけての疼痛・痺れと股関節の疼痛に対するPAPT療法 藤井歯科医院 藤井 宰

昭和47年1月26日生 52歳 男 2024年9月に急性腰痛症に成り、コルセットを装着して腰痛症は回復しましたが、その後左側大腿部~膝~脛脛の外側にかけての疼痛と痺れと並びに股関節の疼痛を発症し当医院に来院。PAPT療法の基本である頭頂部のみでの治療を行なってみる事にした、つまりPL1~PL5を取穴し、セイリンJSP1寸5番鍼を使用して施術を行い追加として、膝のポイントにも置鍼して、近赤外線治療器(スーパーライザー)、レーザー治療器(ルミックス)を20~30分照射して、下肢の動きを確認してもらい動きに異常があれば、10分間置鍼のまま様子を見ると、ほぼ改善するが10日ぐらいでまた弱くなっては、いるが症状現れてくる、従って7日~10日に1回同様の施術を行い12回で回復して、現在症状は再発していない。何故頭頂部のみで治療したのかは、PAPTだけでも約7割の症例に対

3、無疹性ヘルペスに対する扶正祛邪の治療法 たけだ歯科クリニック 竹田照正

口腔顔面領域において、無疹性ヘルペスは三叉神経痛、舌咽神経痛顔面神経麻痺、舌痛症、味覚麻痺、RamsayHunt症候群、突発性難聴、偏頭痛等の病態で多く遭遇する。抗ウイルス効果のある薬剤投与だけでは期待した効果が得られにくい。PAPTやBDORTのポイントや臓器代表領域を活用した針灸治療が奏功する事が多い。東洋医学における治療の基本は、正気を扶けて邪気を瀉す、なのでその具体的な手法について述べてみたい。また、患側には呼吸抑制や冷えのぼせ(陰虚火旺 上実下虚 上熱下寒)も認められるので、述べてみたい。

4、頭痛の治療選択（急性期と慢性期） - PAPTとミネラル補充併用の有用性 -

なかめぐる脳神経外科・内科 頭痛クリニック 青山尚樹

痛みに対する治療として用いられる鍼治療は、そのメカニズムとして①下降性痛覚抑制系の賦活化、②内因性オピオイド神経系の賦活化、③脊髄後角内のシナプス前抑制、④軸索反射により逆行性の血管拡張などが挙げられている。一方、痛みを訴える患者はマグネシウムや鉄の不足を指摘されることも多い。マグネシウムの作用は①興奮性アミノ酸（NMDA）受容体の調整、②筋肉弛緩作用、③一酸化窒素（NO）産生による血管拡張などが報告されており、鉄は筋膜・腱・血管などのコラーゲン生成に関わっており、さらに鉄不足により筋肉の張りや痛み、他の原因の不明の痛みなどが起こる可能性も指摘されている。一次性頭痛の多くは緊張型頭痛と片頭痛であり、慢性化の場合は双方が混在している病態がみられる。緊張型頭痛は筋肉の凝りが基本的な主要因と言われるが、近年では片頭痛であっても約7割において頭痛時に頸部痛や凝りを自覚しているとのデータが報告され、鍼治療においても後頸部の筋群が治療ターゲットとなることも多い。今回、当院における頭痛患者の血液検査データも踏まえた上でのPAPT治療およびマグネシウム、鉄の痛みに関わるメカニズムの再確認と治療選択と併用のなどについて言及・考察する。

5、3ヶ月経過の右脳梗塞患者へのPAPT治療の経験 大友外科整形外科 大友通明

症例は40歳男性。2024年4月に大阪に単身赴任中に気分不快になり病院を受診し、右症脳梗塞のため4日間入院後退院。その後、仕事に復帰したが、5月に入って右阪神の痺れと右視野欠損あり、右脳梗塞の診断で再入院。治療後、右半身の痺れと右外側の視野欠損を残し、姉の紹介で2024年7月2日当院受診した。初診時より、PAPT治療を開始した。短期間で2度の脳梗塞を発症しており、採血では高ホモシステイン血症を認めた。PAPT治療とともにビタミンB群を中心としたサプリメント摂取も行い、高ホモシステイン血症も改善し、現在職場復帰を果たしている。PAPT治療では右握力の改善、痺れの改善が得られた。治療経過とともにPAPT治療の有効性を検討する。

6、患者様へのPAPTの治療説明 阿部昌義

歯科治療で鍼治療（PAPT）を行うには2つのハードルがあります。一つは対象となる疾患が医科と違い少ない事。もう一つは歯科疾患と鍼治療が結びつかないという事です。そこで、当院ではよほど急を要する場合や知人を除いては必ず治療説明（コンサルテーション）を行い、同意書を頂いてからPAPTを行っています。それにより、患者様とのトラブルを減らすだけでなく、鍼治療への抵抗感をなくしております。そこで、当院で行っているコンサルテーションを紹介し、これからPAPTを導入する歯科医師、医師への参考になればと思います。

7、脊柱管狭窄症による疼痛の寛解 永原昇

皆さん共通に痛み、特に下肢に症状がひどくみられ、PAPTによる症状の変化について

8、針刺激マットとPAPTの併用について 朴

頑固な首や背中の凝りや肩痛にシャクティマット&ピローに寝た状態で更にPAPTを施した場合の相乗効果について

9、PAPT療法のみが唯一疼痛治療に反応した症例 たかはしクリニック 高橋嗣明

当院での疼痛治療は病態の原因を考え、様々な手段を選択するがそれらでは効果がなく、この療法が著明に反応した症例を報告する。

協賛業者 セイリン株式会社 有限会社オール 株式会社メディカルネット PIEROTH JAPAN
オーガニックサイエンス株式会社 有限会社クマック 東京医研株式会社 東洋レチン株式会社
SUNSTAR 伊藤超短波株式会社 PRESS Japan株式会社 株式会社P・マインド

教育講演①演者



日本大学歯学部生理学講座 岩田幸一先生

三叉神経損傷後に発症する口腔顔面の神経障害性疼痛に対する非神経細胞の役割

抜歯やインプラント手術など、口腔領域における様々な外科処置によって三叉神経はしばしば損傷される。三叉神経が損傷されると、損傷神経支配領域あるいは支配領域を超えた口腔顔面部位にアロディニアや痛覚過敏と呼ばれる痛覚異常が発症することがある。三叉神経の損傷部位にはmacrophageやT細胞などが集積し、これらの細胞からは様々な物質が放出され神経の興奮性を増強させる。さらに三叉神経節（TG）においてはmacrophageの遊走とともに、satellite 細胞の活性化が誘導され、サイトカインをはじめとする様々な物質の放出が誘導され、TG細胞の活動性の増強が惹き起こされる。TG細胞の興奮はさらに三叉神経脊髄路核尾側亜核（Vc）および上部頸髄（C1-C2）に送られる。TGニューロンから情報を受け取ったVcおよびC1-C2ニューロンは興奮性を増強させるが、それに伴って非神経細胞であるmicroglia、astrocyteおよびoligodendrocyteなどの活性化が誘導される。活性化したグリア細胞はTGにおいて見られたように、サイトカインをはじめとする様々な物質を放出し、ニューロン活動を増強させる。Microgliaおよびastrocyteはお互いに機能的な連絡をもっており、microgliaから放出されたTNF α や補体であるC1qは、astrogliaの活性化を増強させる。このように、三叉神経が損傷を受けると末梢神経系および中枢神経系において、非神経細胞の活性化および集積が誘導される。その結果、神経興奮の増強が誘導され、口腔顔面領域にアロディニアや痛覚過敏が惹き起こされると考えられる。本講演では三叉神経損傷後、末梢神経系および中枢神経系に誘導される非神経細胞と神経細胞の活性化と、それぞれの機能連絡に関して、これまでに得られた研究結果を示し、口腔顔面領域におけるアロディニアや痛覚過敏の発症メカニズムについて議論したい。

日本大学助手（歯学部・生理学教室）
米国国立予防衛生研究所(NIH)客員研究員（～平成2年9月）
東京都老人総合研究所客員研究員
日本大学専任講師（歯学部・生理学教室）
米国メリーランド大学歯学部客員助教授
京都大学霊長類研究所共同利用研究員
大阪大学助教授（歯学部・口腔生理学講座）
新潟大学歯学部非常勤講師
大阪大学助教授大学院歯学研究科（高次脳口腔機能学講座）
日本大学教授（歯学部・生理学教室）
大阪大学非常勤講師
九州歯科大学非常勤講師
日本大学特任教授（歯学部・生理学講座）—現在
The International Association for the Study of Pain (IASP) 会員
American Society for Neuroscience 会員
日本疼痛学会評議員

日本生理学会評議員
J. Neuroscience for Pain Res. 編集委員長
日本疼痛学会理事
歯科基礎医学会評議委員
J. Orofacial pain editor
Member of IASP Committee on Research
歯科基礎医学会理事
Journal of Oral Biosciences editor
日本学術会議連携会員（一令和1年）

教育講演②演者



氏名：梅田 聡（うめだ さとし）

タイトル：慢性疼痛における心理的痛みとその神経基盤

抄録本文：

慢性疼痛における心理的な痛みの原因になる要素はさまざまであり、不安や抑うつ、心的外傷後ストレスなどの精神的要因、生活環境、気候、経済状況、対人関係、孤立などの社会的要因が複雑に関与している場合が多い。これまでの研究において、痛みを引き起こす神経レベルの要因に関しては、島皮質および帯状皮質から構成されるセリエンスネットワークを中心とした神経機構、そして痛みを感じる身体部位と中枢との神経連絡を仲介する自律神経機構について、多くの研究成果が得られている。近年では、急性痛と慢性痛では、関与する神経機構が異なることも明らかにされている。しかしながら、心理的な痛みについては、これらの要因に加え、痛みをはじめとする身体内部の変化を感知する内受容感覚の個人差、および痛みへの注意バイアス、痛みの継続による破局的思考、鮮明な痛みエピソードの記憶、痛みの予測に伴う恐怖感情などの認知レベルの要因も関与しており、まだそのメカニズムは十分に解明されているとはいえない。また、多くの疾患においてプラセボやノセボの効果が大きいことは知られているものの、その作用機序についても未だ十分に説明されているとは言い難い状況である。心理的な痛みの病態を理解するためには、これらの要因がどのように関わり合っており、主観としての痛みを生じさせているかを徹底的に調べる必要がある。とりわけ、どのようなメカニズムで痛みが慢性化するのかについては不明な点が多く、この解明は臨床的にも大きな意味を持つ。

本講演では、上記に基づき、まずは心理的な痛みを考える上で必要とされるさまざまな要因について整理し、痛みを生じさせるメカニズムを多角的に検討する。自律神経反応の特殊性や内受容感覚に関する講演者による一連の研究成果を紹介し、「脳－心－身体」の三者関係のダイナミクスという統合的観点の重要性について述べる。近年、取り組んでいる気圧の影響による自律神経反射および予測的な自律神経機能に関する研究についても取り上げる。最後に、心理的な痛みの緩和の可能性についても考える。

役職：慶應義塾大学文学部心理学専攻 教授

略歴：

- ・1998年 慶應義塾大学 大学院社会学研究科心理学専攻 博士課程 単位取得退学
- ・1999年 慶應義塾大学 文学部人文社会学科心理学専攻 助手
- ・2002年 学位取得: 博士（心理学）
- ・2006年 慶應義塾大学 文学部人文社会学科心理学専攻 助教授 (2007年より准教授)
- ・2006～2007年 ロンドン大学認知神経科学研究所・国立神経学神経外科病院 訪問研究員
- ・2014年 慶應義塾大学 文学部人文社会学科心理学専攻 教授
- ・2020年 慶應義塾大学 医学部精神・神経科学教室 兼任教授

現在、日本認知心理学会 理事長、日本神経心理学会・日本自律神経学会 理事、日本生理心理学会・日本高次脳機能学会・日本脳科学関連学会連合 評議員。



